

基本情報

時間割コード/Course Code	010377
開講区分(開講学期)/Semester	秋～冬学期
曜日・時間/Day and Period	金 2
開講科目名/Course Name (Japanese)	比較思想史
教室/Room	
開講科目名(英)/Course Name	Comparative History of Ideas
定員/Capacity	0
ナンバリング/Course Numbering Code	01HUSC3A108,01HUSC3D205
必修・選択/Required/Optional	
単位数/Credits	2.0
年次/Student Year	3,4年
分野/Field	
担当教員/Instructor	野尻 英一

詳細情報

講義題目/Course Name	日本の現代思想：ポストモダンの諸相
開講言語/Language of the Course	英語
授業形態/Type of Class	演習科目
授業の目的と概要/Course Objective	<p>本演習は、1980年代以降の日本のポストモダン思想の世界に分け入り、学生それぞれの視点からそれら思想における主張の意義を吟味し、クラスにおけるプレゼンテーションやディスカッションを通して学ぶ機会を提供することを目的とする。演習は英語により行われる。日本人学生、留学生双方の参加を歓迎する。グローバル時代における国ごとの思想の差異と同一性を見つけてほしい。</p> <p>一般に指摘されるところでは、日本におけるポストモダン思想の流行は、後期資本主義の社会的なステージ、すなわち生産中心の経済成長の終わり、消費社会と金融経済の時代の到来というステージに対応した文化的な反応であったと言われる。ポストモダン思想における議論の多くは、近代性批判を主張するものであった。今日、多くのアジア諸国が急速に後期近代のステージに入りつつあるので、そのことが議論の共通の土台となる。</p> <p>教科書は下記の8人の著名な日本人著者による14本の論文を収録する。これらの論文を読み、こうした思想がなぜ形成されるのかを考え、日本の近代性の特殊性と社会のポストモダンの状況の普遍性について理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> EHARA YUMIKO (江原由美子) The Politics of Teasing A Feminist View of Maruyama Masao's Modernity. KANG SANGJUNG (姜尚中) The Imaginary Geography of a Nation

	<p>and Denationalized Narrative The Discovery of the “Orient” and Orientalism</p> <p>3. KARATANI KOJIN (柄谷行人) Overcoming Modernity Soseki’s Diversity: On Kokoro</p> <p>4. NISHITANI OSAMU (西谷修) The Wonderland of “Immortality”</p> <p>5. NAOKI SAKAI (酒井直樹) Two Negations: The Fear of Being Excluded and the Logic of Self-Esteem</p> <p>6. TAKAHASHI TETSUYA (高橋哲哉) Japanese Neo-Nationalism: A Critique of Kato Norihiro’s “After the Defeat” Discourse From the Hitomaru and Kimigayo to the Symbolic Emperor System</p> <p>7. UENO CHIZUKO (上野千鶴子) In the Feminine Guise: A Trap of Reverse Orientalist Collapse of “Japanese Mothers”</p> <p>8. UKAI SATOSHI (鵜飼哲) Colonialism and Modernity Reflections of Beyond the Flag: Why Is the Hitomaru Flag “Auspicious/Foolish”?</p> <p>上記論文から6～8本ほどの論文を選び、毎回担当を決め、論文の著者と論文の内容について30分ほどのプレゼンテーションを行なってもらう。その後ディスカッションを行なう。</p>
<p>学習目標/Learning Goals</p>	<p>①日本のポストモダン思想の一般的傾向についての知見を身につけることができる。</p> <p>②日本のポストモダン状況について生産的な議論を行うことができ、その特殊性と普遍性を見いだすことができる。</p>
<p>履修条件・受講条件/Requirement / Prerequisite</p>	
<p>授業計画/Class Plan</p>	<p>※授業計画は、初回授業にて受講者とともに相談し、指定テキストのうちいずれを講読するかを決めてから作成する。基本的には、受講者が順番にテキストの指定範囲について発表を行ない、議論する形式である。</p> <p>第1回 イン트로ダクション（授業概要、テキスト選択、発表順番決め）</p> <p>第2回 発表とディスカッション（1）</p> <p>第3回 発表とディスカッション（2）</p> <p>第4回 発表とディスカッション（3）</p> <p>第5回 発表とディスカッション（4）</p> <p>第6回 発表とディスカッション（5）</p> <p>第7回 発表とディスカッション（6）</p> <p>第8回 発表とディスカッション（7）</p> <p>第9回 発表とディスカッション（8）</p> <p>第10回 発表とディスカッション（9）</p> <p>第11回 発表とディスカッション（10）</p> <p>第12回 発表とディスカッション（11）、仮レポート提出について</p> <p>第13回 発表とディスカッション（12）、仮レポート提出</p> <p>第14回 仮レポート応答とディスカッション</p> <p>第15回 まとめ、期末レポート提出</p>
<p>授業外における学習/Independent Study Outside of Class</p>	<p>毎回少なくとも一時間のテキスト予習を授業前までに行なうこと。自分の担当の時はプレゼンテーションを準備すること。</p>

<p>教科書・教材／Textbooks</p>	<p>Richard Calichman, Contemporary Japanese Thought, Columbia University Press, 2005. (ペーパーバック版は4,551円、Kindle版は2,574円。Amazon.co.jpで入手可能)</p>
<p>参考文献／Reference</p>	<p>教科書中、授業で取り上げる論文の日本語原本のコピーを配布する。</p>
<p>成績評価／Grading Policy</p>	<p>演習におけるディスカッションへの貢献、および発表60% 期末レポート40%</p>
<p>コメント／Other Remarks</p>	
<p>特記事項／Special Note</p>	<p>演習は英語で行われる。日本人学生も留学生も英語で議論、質問、プレゼンテーションを行なうこと。ただし英語のリスニング&スピーキングが得意ではない日本人学生も、意欲があれば、演習に参加できることができる。毎回の演習のための予習と発表の準備をしっかりと行なうこと。教員から演習に参加するためのアドバイス（方法）を提供する。</p>
<p>受講生へのメッセージ／Messages to Prospective Students</p>	

学生への注意書き